

田んぼの恵み新聞

PART II

発行人 高岸 ひなた

私が住んでいる安城市には田んぼがたくさんあり、お父さんもお米、麦、大豆を生産しています。今、未来の地球のために様々な取り組みや研究が「田んぼ」で行われているようです。農家であるお父さんに話を聞いて、記事にまとめてみました。

えっ!?! 水田が油田に??

水田で藻を生産して油に!

藻には体内に油分をため込む種類があります。小さな土地でも培養でき、体からたくさんのお油をとることができると、石油がなくなるときの代替品として注目されています。お父さんの話では、今この藻を田んぼで生産する研究が実用化に向けて進められているそうです。日本には多くの耕作放棄地があります。そこで藻を生産して油をつくれれば、輸入エネルギーを減らせるだけでなく、農地の有効活用にもなります。どんな藻が生産されているのかも、お父さんに聞いてみました。

★藻の種類★

- ①ポツリオコッカス
1haで年間118トンの油をつくりだす藻。ドウモロコシは1haで0.2トン。光合成するのCO2も吸収してくれ、エサが必要ありません。
- ②オランニキトリウム
ポツリオコッカスの10倍以上の油をつくることかできます。しかし光合成をしないためエサをあげる必要があり、その分のコストがかかります。



上ポツリオコッカス
下オランニキトリウム

実用化に向けて課題点もあります。現在1ha500円かかるコストをさげることで、水田で藻を育てることが農地法で制限されていることです。早く実用化してほしいです。

お米の油も生産中

お父さんも組合員になっていてJAでは年間300万円の田んぼでお米を原料にしたバイオエタノールを生産しているそうです。すでにお米が入った車が走っているのです。



微生物の力で田んぼ発電!

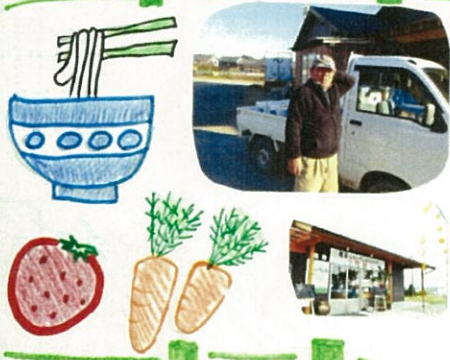
田んぼにいてる微生物の中には、エサを分解するときに発電する種類があります。この微生物を作って、田んぼで電気を生み出す実験が行われています。今はまだ取り出すことができない電気が小さいけれど、時計を動かしたり、LEDを点灯することができるといわれています。田んぼの生き物と人間が地球のために助け合っていると思いました。



えっ!?! 水田で発電??

地産地消でeco

安城市は地産地消が盛んな地域です。地産地消とは、地域でとれたものを地域で食べることで、長距離輸送の必要がありません。無駄なCO2を出さず、環境にやさしいと言われています。お父さんが運営に協力している小川町の農家レストラン&ショップ「太陽の味」では安城市の田んぼでとれたお米、大豆を使った豆腐などを販売しています。また地域でとれた麦を小麦粉にして、お店でうどんを打っています。社長の大屋さんは安心・安全・エコで美味しいものを地元の人に食べてほしいと笑顔で話してくれました。



地球に優しい田んぼを守ろう

ふれあい! 田んぼアート安城

安城では毎年田んぼアートを開催しています。今年のテーマは笑顔。田んぼと自然環境の大切さを学ぶイベントがたくさん参加しています。

